

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	村岡地区都市拠点総合整備事業費	所管課	都市整備課
まちづくりテーマ		重点施策名	
4.都市の機能と活力を高める		都市基盤の充実と長寿化対策の推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
超高齢社会・人口減少社会を迎え、人口集積を図りつつ地域公共交通と連携して、市民の生活利便性の維持を図るコンパクトシティ化(コンパクトプラスネットワーク)の推進が求められている。超高齢社会において、持続可能な地域公共交通やパーソナルな移動手段等を確保することで、より多くの方々が快適に移動でき、活動できることが求められている。また、スマートシティ等の実現に向け、まちづくりDXの推進が求められている。藤沢市都市マスタープランで位置づけている将来都市構造の実現に向け、村岡新駅周辺における研究開発拠点の都市拠点形成を目的としている。併せて、新駅を核とした新たなまちづくりにより、地域の利便性向上及び市全体の活性化を目指す。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
平成30年度に実施された東京都市圏パーソントリップ調査によると、村岡地区は、駅への交通手段について自動車の割合が市内でも高い地区となっている。また、藤沢市都市交通計画において、バス・徒歩による最寄り駅まで15分圏域から村岡地区の一部が外れており、解消が求められている。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
村岡新駅を中心に、知的人材の集積を活かし世界に誇る「尖る創造」と地域や市民と共に創り出す「広がる創造」が相互に作用することで好循環を生み出す、新たな研究開発拠点が形成されている。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
村岡地区の都市拠点整備により、基本目標7に示す「誰もが移動しやすい交通の充実」や「まちに活力やにぎわいを創出する活動の場づくりや、東海道本線の新駅開業を契機として未来を担う人材が育つような環境整備」が図られ、都市拠点創出に向け進捗した。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
駅をはじめとする拠点の整備	3.00	3.00	3.06
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること	2.94	2.93	2.74
把握した市民等のニーズとその対応			
新駅への公共交通の充実や坂の多い地形への配慮等の要望があり、課題整理や将来の交通の検討を行うとともに関係者と協議を行う。また、福祉の拠点で住民が暮らしやすい暮らし充実のまちづくりを行うべきとの要望があり、新駅を核に高齢者をはじめとする地域住民が、徒歩や公共交通により生活利便施設などに容易にアクセスできる環境など地域の利便性の向上に資するまちづくりの検討を行う。さらに、サステナブル藤沢の実現に寄与するまちづくりであることを情報発信していくとともにまちづくりに対する機運の醸成を図る。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとその整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
先端的な考え方及び技術を導入しながら、新駅を核に多様な人々が移動しやすい環境やレジリエンスの高い環境等を持つ新たな都市拠点の創出を様々な世代の市民や多様な主体等と連携しながら取り組み、市全体でのサステナブルな都市の形成を目指す。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	すべての人に健康と福祉を
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	公園改修費	所管課	公園課
まちづくりテーマ		重点施策名	
1.安全で安心なまちをつくる		災害対策の推進と消防・救急体制の充実	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
近年の突発的かつ局地的な豪雨や大型台風に伴って頻発化する土砂災害等への対策として、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている公園の法面への対策が望まれている。都市公園を市民に安全・安心に利用してもらうため、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている公園・緑地の法面の安全対策を実施することで、公園利用者及び隣接住民等を災害から守る。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている公園・緑地のうち、法面对策が未実施の16公園(26箇所)について、家屋の隣接状況などから優先順位を定め、順次対策を進めている。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている公園・緑地の法面への対策が完了し、公園利用者及び隣接住民等が土砂災害から守られる。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている公園・緑地の法面への対策により、基本目標1に示す「激甚化・頻発化する自然災害への対策の強化」が図られた。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
まちと自然環境との調和がとれていること	3.61	3.71	3.69
災害に対して、市民が不安なく暮らしていること	3.17	3.09	3.09
把握した市民等のニーズとその対応			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 □インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
公園・緑地の法面对策を計画的に進めることで、防災・減災に取り組むもの。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	住み続けられるまちづくりを
②	気候変動に具体的な対策を
③	

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	緑地改修事業費	所管課	みどり保全課
まちづくりテーマ		重点施策名	
1.安全で安心なまちをつくる		災害対策の推進と消防・救急体制の充実	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
近年、全国的に集中豪雨、大型台風の影響により土砂災害等の被害が増加している。土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に位置する市有山林においても法面崩壊等の被害を未然に防ぐ対策が求められている。土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域内の市有山林について、人の生命や財産を守るための対策を行う。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
市有緑地は全体で46緑地あり、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に含まれている緑地は20緑地である。その20緑地のうち家屋が隣接するなど優先的対策が必要な11緑地(14箇所)の対策を行っているもの。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域内の市有山林について、的確な災害対策を講じ、安全安心な市有山林が保全されていること。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域内の市有山林について、的確な災害対策を講じられ、かつ施設等の適切な維持管理を行うことで、安全安心な市有山林が保全されていること。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
災害に対して、市民が不安なく暮らせていること	3.17	3.09	3.09
把握した市民等のニーズとその対応			
①市議会に対し、工事実施までには、調査や設計等を段階的に進めて必要があることを説明。②調査した結果に基づき、危険箇所を把握し対策を実施することを説明。③法面隣接住民に対し、既存樹木に影響が少ない工法等を選定していることを説明。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 □インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
法面の災害対策を実施するにあたり、既存樹木に影響が少ない工法、又は樹木が生育しやすい工法を選定し、緑地の保全を図る。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	住み続けられるまちづくりを
②	気候変動に具体的な対策を
③	陸の豊かさを守ろう

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	藤沢駅周辺地区再整備事業費	所管課	藤沢駅周辺地区整備担当
まちづくりテーマ		重点施策名	
4.都市の機能と活力を高める		都市基盤の充実と長寿命化対策の推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
藤沢駅周辺地区は市の都心部であるとともに、利用者も多く、湘南の玄関口として核となる都市拠点であることから、老朽化の進んだ施設の更新を図るとともに、利用し易く、安全で快適な公共空間を再整備することで、活力とにぎわいのあるまちの再生を目指し、早急な再整備が必要となっている。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
1960年代から1970年代の藤沢駅及び駅周辺の整備以降、大きな機能更新を行わないまま現在に至っており、まちの活力の低下を招いている一因となるとともに、老朽化や機能の陳腐化など、近年の利用者ニーズや社会情勢に適合できていないため、駅前広場を含めた駅周辺市街地の機能更新が求められてきた。 今後も公共施設を更新することにより、安全性や利便性を高め、更新の機運を民間にも波及することで、滞在者数や乗降客数を増やし、駅周辺全体のにぎわいを創出する。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
南北自由通路が拡幅され南口の南北連絡橋も拡幅整備がされており、鉄道3線の乗り換えがわかりやすくスムーズに行われるとともに、南口広場の地上部にも滞留空間が広がり北口デッキから自由通路を経て南口駅前広場に至るまで、歩きやすくにぎわいのある公共空間が整備されている。また公共施設の整備にあわせ周辺民間施設の更新も進んでおり、拡充されたエリアマネジメント活動により新たなにぎわいや交流が生まれ、市民や来街者、事業者等の活気あふれる活動が駅を中心に藤沢駅周辺に広がっている。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
将来にわたって都市の魅力と活力を維持するための新たな基盤整備として、南北自由通路の拡幅や、小田急藤沢駅の橋上改札が利用開始されたことにより、都市としての優位性と持続可能性を高められ、基本目標7に示す「都市基盤を充実する」が図られた。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
駅をはじめとする拠点の整備	3.00	3.00	3.06
把握した市民等のニーズとその対応			
藤沢駅を利用している視覚障害者団体から、通路部分に視覚障害者誘導用ブロックを設置してほしいという要望があったため、新たに設置し、現在利用している状況である。今後も南北自由通路拡幅整備や南口駅前広場整備などの事業において、利用者からの声を聴きながら、さらなる魅力度及び快適度の向上に向け進めていきたい。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
藤沢駅周辺地区については、将来にわたり藤沢の中心市街地であるため、公共施設再整備を先行することで、周辺民間施設の機能更新に向けた投資を促進し、官民が連携して取り組む再整備を目指す。また再整備後においても、にぎわい創出に向けたエリアマネジメントの取組を継続して実施することで、駅周辺に人が集い、誰もが移動しやすく、活動できる空間整備を進めていく。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	住み続けられるまちづくりを
②	パートナーシップで目標を達成しよう
③	

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	健康と文化の森整備事業費	所管課	西北部総合整備事務所
まちづくりテーマ		重点施策名	
4.都市の機能と活力を高める		都市基盤の充実と長寿化対策の推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
人口減少・高齢化の進展が見込まれる中、住民の生活利便性の維持・向上、行政サービスの効率化等を図るため、居住機能や医療・商業等の都市機能を集約・誘導する集約型都市構造の実現が求められている。また、近年、頻発・激甚化する自然災害に対応した安全なまちづくりの推進や、まちづくり活動を担う民間団体等を活用した官民連携のまちづくりが求められている。藤沢市都市マスタープランに掲げる将来都市構造の実現に向け、いずみ野線延伸計画を見据えつつ、健康と文化の森地区において学術文化新産業拠点を形成することを目的としている。少子超高齢社会への対応や大規模自然災害に対する安全性向上のため、都市機能を集約し持続可能なまちづくりに取り組む必要がある。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
藤沢市都市マスタープランにおいて、都市拠点の1つとして学術文化新産業拠点到位置付けられている。また、藤沢市産業振興計画においても、基本方針Ⅱ「研究開発拠点や研究開発力の高い企業の集積をめざす」の施策として、「交通ネットワーク等の都市基盤整備の推進」に健康と文化の森地区のまちづくりが位置付けられている。さらに、土地区画整理事業による計画人口を約2,700人としている。(事業着手時約300人)			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術研究機能を核に、学生や教職員、企業、市民、行政などの多様な主体が交流・連携して様々な活動や取組が展開されており、新しい「もの」「技術」「文化」等が創出され持続的に発展しつづける魅力的なまちが形成されている。また、豊かな自然や田園空間に囲まれた環境のもと災害に強く安全・安心に暮らせる質の高い拠点空間が形成されている。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
健康と文化の森地区のまちづくりを進めることにより、基本目標7に示す「都市としての優位性と持続可能性を高め、自然豊かな環境の中で利便性が高く快適な生活を実感できる都市」の実現が図られた。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
駅をはじめとする拠点の整備	3.00	3.00	3.06
把握した市民等のニーズとその対応			
土地区画整理事業の推進に向け、組合、業務代行者と密に連携しながら取り組むとともに、地域住民等から望む声が寄せられている生活の利便性が向上する施設等の誘致や早期立地について、民間事業者へのヒアリングを行う等、取組を進める。また、企業誘致活動、いずみ野線の早期延伸については、所管課と情報を共有しながら連携した取組を進める。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとその整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 ■スマート藤沢
テクノロジーを活用した誰もが住みやすいまちの形成を目指すとともに、産学公連携の取組を進めることで、地域の持続的な発展やまちの価値向上を図る。また、浸水対策を図ることで、安全・安心で暮らしやすいまちを形成する。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	産業と技術革新の基盤をつくろう
②	住み続けられるまちづくりを
③	気候変動に具体的な対策を

令和8年度 総合指針重点事業評価表

1 基本情報

重点事業名	新産業の森整備事業費	所管課	西北部総合整備事務所
まちづくりテーマ		重点施策名	
4.都市の機能と活力を高める		都市基盤の充実と長寿化対策の推進	

2 重点施策概要・指標

事業目的及びその背景(必要性、社会情勢等)			
新産業の森地区は、地域経済の活性化や雇用の創出、将来にわたる安定的な税収確保等のため、また、操業環境改善等のための市内企業の移転や事業所の拡大、さらに市外企業の誘致によって、本市の活力創出を図る目的で実施する事業であり、北部地区、第二地区と段階的な基盤整備を進めてきている。 神奈川県による第8回線引き見直しにおいて、西部地区は将来的に市街化区域に編入する候補地として位置付けられたため、今後、計画的な市街地整備が確実に進んだ段階で、随時、市街化区域への編入が可能となっている。また、令和5年度からは地域との協働により西部地区のまちづくりの検討を進めてきており、令和7年度末には、まちづくりの基本的な考え方を整理した「新産業の森西部地区まちづくり基本構想」を策定した。			
事業実施の有効性、必要性を示す具体的な数値等(EBPM)			
藤沢市都市マスタープランにおける「都市づくりの基本方針」の「活力を創造する都市づくり」において、「新産業の森地区における緑豊かな環境と調和した工業系市街地の創出・充実」が位置付けられている。また、藤沢市産業振興計画においても、基本方針Ⅱ「研究開発拠点や研究開発力の高い企業の集積をめざす」の施策として、「新産業の森における新規産業用地の創出に努める」と位置付けられている。今後、西部地区の検討が進み、土地利用等の計画を定める中で、経済波及効果や税収効果等を算出し、有効性を検証する。			
2028年又は事業終了時の望ましい姿			
綾瀬スマートインターチェンジ等の広域交通機能を活かした産業の立地が進み、雇用の創出や地域経済の活性化、また、税収が増加している。既存住宅のある西部地区では、「まちづくり基本構想」で示されているとおり、道路や公園、公共下水道などの公共施設の整備、良好な住環境の形成、豊かなみどりの保全・創出により、「産業」「暮らし」「みどり」が調和した持続的に成長、発展するまちが形成されている。			
20年後(2045年)の基本目標等への寄与状況			
産業系土地利用を計画的に誘導し、新たな産業拠点が形成されることで、基本目標7に示す「都市としての優位性と持続可能性を高める」ことに寄与する。			
関連の深い「市民意識調査結果」	令和5年度	令和6年度	令和7年度
駅をはじめとする拠点の整備	3.00	3.00	3.06
市内の工業に活気があると感じますか？	2.71	2.79	2.71
把握した市民等のニーズとその対応			
検討段階にある西部地区について、「土地区画整理事業などの事業手法や市街化区域編入による影響を具体的に説明して欲しい」という要望があり、今後、検討や合意形成を進める中で、きめ細かく説明を実施していく。また、地権者や地域に対しては、郵送や回覧、ホームページなどにより検討状況について情報発信を行っているが、「情報が正しく伝わるよう、情報発信や提供方法を工夫して欲しい」との要望があり、情報発信について検討を進めている。			

3 まちづくりコンセプトとSDGs

まちづくりコンセプトとの整合性とその理由	
まちづくりコンセプト	■サステナブル藤沢 ■インクルーシブ藤沢 □スマート藤沢
産業拠点の創出に向けた基盤整備や企業誘致を進めることで、地域経済の活性化や雇用の創出、税収の増加等が図られ、持続可能な地域づくりに寄与する。また、西部地区の住環境が向上するなど、安全で安心な都市空間や地域環境の形成が図られる。	
貢献する主なSDGsのゴール	
①	産業と技術革新の基盤をつくろう
②	住み続けられるまちづくりを
③	パートナーシップで目標を達成しよう